

独立歩兵第三六五大隊（菅第一七六一〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九一六 一七 七 一	独立歩兵第三六五大隊仮編成（敦賀） 門司港出帆
七 一 五	ルソン島マニラ上陸
七 二 〇	独立歩兵第三六五大隊編成完結（マニラ） 爾後ルソン島ムニオス地区警備
九 二	移駐のためマニラ出発
九 一 二	セブ島北部ソゴト湾に於て米機の攻撃を受け乗船沈没
九 三 〇	セブ島に於て再装備を了す
一 〇 二	ホロ島に転進のためセブ港出帆
一 〇 五	ホロ島上陸 爾後同島の警備
二 〇 四 九	米軍ホロ島に上陸 部隊は之れを迎撃バチカル、バンカル、マグシング、ダット山海岸陣地附近に転戦 以後ツマンタンガス山シロマン山附近の戦斗において約八〇%以上の損害を受け、

	<p>八 一 五</p>
	<p>九 二</p> <p>終戦 終戦</p> <p>終戦に至る</p> <p>（注）終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する</p>

独立混成第五五旅団砲兵隊（菅第一七六一一部隊）

年月日	略歴
昭和一九一七 六 一七	独立混成第五五旅団砲兵隊仮編成（中部軍管下）
七 一	門司港出帆
七 一五	ルソン島マニラ上陸
七 二〇	独立混成第五五旅団砲兵隊編成完結（マニラ） 爾後ルソン島ボンガボン地区警備
八 三	マニラ港出帆
八 五	セブ島セブ市上陸
一〇 二	ホロ島転進のためセブ港出帆
一〇 五	ホロ島上陸
二〇 九	以後ダット山に在り肅正討伐及陣地構築に従事 米軍ホロ島上陸之れと交戦
四 一三	ダット山よりツマンタンガス山に転進

	七 一 九
	八 一 五 九 二 終 戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

シロマン山に転進戦斗継続

独立混成第五五旅団工兵隊（菅第一七六一二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 七	独立混成第五五旅団工兵隊仮編成（中部軍管下）
七 一	門司港出帆
七 一 五	ルソン島マニラ上陸
七 二 〇	独立混成第五五旅団工兵隊編成完結（マニラ）
八 三	爾後ルソン島ボンガボン地区の陣地構築並に警備 マニラ港出帆
八 五	セブ島セブ市上陸同地附近の警備
九 一 二	米機の第一回空襲を受く
一 〇 二	セブ港出帆
一 〇 四	ホロ島に上陸
二 〇 九	以後ホロ島内の肅正討伐及陣地構築に任ず 米軍ホロ島上陸開始

八
一
五
九
二

停
戦
終
戦

之れと交戦後ダホ山―ツマンタンガス―シロマン山等に転戦終戦に至る

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

独立混成第五五旅団通信隊（菅第一七六一三部隊）

昭和一九	年月日	略	歴
六	一七	独立混成第五五旅団通信隊仮編成（中部軍管下）	
七	一	門司港出帆	
七	一五	ルソン島マニラ上陸	
七	二〇	独立混成第五五旅団通信隊編成完結（マニラ）	
八	三	爾後ルソン島ボンガボン地区駐留通信業務に従事	
八	五	移駐の為めマニラ港出帆	
一〇	二	セブ島セブ市に上陸	
一〇	四	セブ港出帆	
二〇	九	ホロ島に上陸	
二〇	九	爾後ホロ島において通信業務に従事	
四	中旬	米軍ホロ島に上陸	
八	一五	以降ホロ島タホ山附近において激戦を展開玉砕するに至る	
九	二	終戦	

第一〇〇師団防疫給水部（拠第一二四二一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九七 七 九	軍令により第一〇〇師団防疫給水部編成下令 編成完結（岐阜、中部第八〇部隊）
九 一	屯営出発
九 一八	門司港出帆
一〇 二	バンシー海峡に於て米潜水艦の攻撃を受け海没（生死不明者一四五名）
一〇 一三	比島マニラ上陸（下士官以下三六名）
一一 一〇	第一四方面軍野戦貨物廠に配属 爾後野戦貨物廠勤務
二〇 八 一五	停戦
二〇 九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する

第二〇〇師団野戦病院（拠第一二四一九部隊）

年月日	略歴
昭和一九 七 七 九	軍令により第一〇〇師団野戦病院編成下令 編成完結（岐阜、中部第八〇部隊）
九 一 八	南方派遣のため門司港出帆
一 〇 二	バンシー海峡に於て米潜水艦の攻撃を受け海没（溺水戦死者二四〇名を生ず）
一 〇 三	残存者は比島マニラ港上陸（一部患者は北サンフェルナンド上陸後盟兵団に配属）
一 〇 二 五	マニラに於て野戦貨物廠の業務援助
二 〇	北部ルソン島スンバヒスカヤ州バンクに移駐
二 〇	爾後第八八兵站監部の指揮下に入り野戦貨物廠勤務
八 一 五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後米軍により各個に復員する

独立混成第五四旅団司令部（萩第一七六〇〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 五	軍令により独立混成第五四旅団司令部編成完結（若松） 兵団長 中 将 北 条 藤 吉
七 一 二	比島方面派遣のため門司港出帆
八 一 一	ルソン島マニラ着
八 一 九	マニラ発
八 一 一	セブ島セブ着
八 一 八	セブ出帆
八 二 一	ミンダナオ西部ミサミス上陸同地附近の防衛に任ず
九 二 二	ミンダナオ島サムボアンガに上陸
	爾後同地附近の防衛に任ず
二 〇 三 一 〇	米軍ザンボアンガに上陸
	我軍は之れを迎撃し交戦三月下旬に到る
四 上 旬	部隊は西海岸に沿い北上を開始
五 下 旬	兵団長はシブコ方面の戦斗において戦死

	<p>八 一 五</p>
	<p>九 二</p> <p>停戦 終戦</p> <p>爾後部隊は更に小部隊の分散行動を以つて東海岸に転進し遊撃戦を続行す</p> <p>(注) 生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する</p>

独立歩兵第三六〇大隊（萩第一七六〇一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九六 一五	第一四方面軍司令部歩兵大隊要員編成（東部第三七部隊）
七 三	門司港出帆
七 一六	ルソン島マニラ上陸
七 二〇	独立歩兵第三六〇大隊編成完結（マニラ）
同 日	独立混成第五四旅団長の隷下に入る
七 二七	マニラ港出帆
七 三〇	セブ島上陸同島の警備
八 一五	セブ港出帆
八 一八	ミンダナオ島西部ミサミスに上陸同地附近の警備
九 二二	ミサミス市出発
九 二四	ミンダナオ島サムボアンガに上陸 爾後同地附近の警備
二〇 三 八	米軍サムボアンガ湾に出現し砲撃の後サムボアンガに上陸部隊は之れを迎撃し、以後山嶽の既設陣地に依り交戦す

昭和二〇

四 上旬

五 下旬

八 一五

九 二

部隊は西海岸沿い北上

ンブコ附近に於て激戦を交う

以後糧秣欠乏と共に遊撃戦斗に入り北上す

停戦

終戦

(注) 生存者は終戦後米軍収容所に収容され爾後各個に復員する

独立歩兵第三六一大隊（萩第一七六〇二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 六	第一四方面軍司令部歩兵大隊要員編成（東部第八部隊）
七 三	門司港出帆
七 二 三	ルソン島マニラ上陸
七 二 〇	独立歩兵第三六一大隊編成完結（マニラ）
同 日	独立混成第五四旅団長の隷下に入る
七 二 三	マニラ港出帆
七 二 五	セブ島上陸
八 一 四	セブ港出帆
八 一 五	ミンダナオ島サムボアンガに上陸
二 〇 三 一 〇	爾後サンボアンガ市カラリアン飛行場附近の警備並に陣地構築に任ず 米軍サムボアンガに上陸
四 一 二	部隊は之れを迎撃したる後既設陣地に拠り頑強なる抵抗と夜間の斬込を反覆し米軍 に甚大なる損害を与えたるも当大隊の損害亦概ね七割を生ず 命により西海岸沿いに北進を開始し爾後東海岸に転じ昭和二〇年二月以降シンダガン

八一五

停戦

方面防衛任務にありし第二、第三中隊と二〇年八月連絡を確保するに到る

1. 大隊長 少佐 田中 豊 秋

2. 大尉 梅原 保 (二〇・三・三一以降)

(注) 生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

年 月 日		略 歴
昭和一九	六一五	独立混成第五四旅団砲兵隊編成完結（宇都宮）
	六一七	屯営出発
	同日	第一四方面軍司令官の隷下に入る
	七 三	門司港出帆
	七一五	ルソン島マニラ上陸
	七三〇	マニラ出帆
	七三一	セブ島セブ市上陸
	八二二	爾後同市附近の警備
	八二二	セブ港出帆
	八二二	ミンダナオ島ミサミス上陸
	一〇一〇	爾後同地附近の警備
	一〇一〇	ミサミス出帆
	一〇一二	ザンボアンガ半島コロナトド沖にて対潜水艦戦斗に参加
	一〇一三	ミンダナオ島ザンボアンガ市上陸

独立混成第六一旅団司令部（鑑第一〇二九一部隊）

年月日	略歴
昭和一九七七年七月七	軍令により独立混成第六一旅団司令部編成下令
七三	編成完結（京都）
七三一	京都出発
八二	門司港出帆
同日	第一四方面軍の隷下に入る
八一七	高雄上陸
九一三	高雄港出帆
九一四	バシー海峡バタン諸島バタン島上陸
	爾後同島の警備に任ず
二〇七	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入る
八一五	停戦
九二	終戦

旅団長 中将 田島彦太郎
 （注）終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七 一 七	軍令により独立混成第六一旅団砲兵隊編成下令 編成完結（京都）
七 三 一	京都出発
八 二	門司港出帆
同 日	第一四方面軍の隷下に入る
八 一 七	台湾高雄上陸
九 一 三	高雄港出帆
九 一 四	バシー海峡バタン島上陸
二 〇	爾後同島の警備に任ず
八 一 五	停戦
九 二	終戦
	(注) 終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立混成第六一旅団砲兵隊（鎧第一〇二九七部隊）

年月日	略歴
昭和一九七七年七月七日	軍令により独立混成第六一師団通信隊編成下令
昭和一九七七年七月三十一日	編成完結（京都）
昭和一九七七年八月二日	京都出発
昭和一九七七年同日	門司港出帆
昭和一九七七年八月十七日	第一四方面軍の隷下に入る
昭和一九七七年八月十七日	台湾高雄上陸
昭和一九七七年八月三十一日	高雄港出帆
昭和一九七七年九月一日	バンシー海峡バタン島上陸
昭和一九七七年九月三十一日	爾後同島の警備並に通信連絡に任ず
昭和一九七七年十月三十一日	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入る
昭和一九七七年十一月三十一日	停戦
昭和一九七七年十二月三十一日	終戦

隊長 中尉 長谷川 学
 （注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立歩兵第三〇二大隊（鎧第一〇二九一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九五三 年三月三十一日	独立歩兵第三〇二大隊編成完結（台湾）
六月二日	高雄港出帆
六月七日	バシー海峡バタン島上陸
九月一日	爾後同島の守備並に陣地構築等に従事 台湾軍の隷下を脱し第六一旅団長の隷下に入る
八月五日	停戦
九月二日	終戦
二〇	
	（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立歩兵第四〇五大隊（鎧第一〇二九二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七 一 七	軍令により独立歩兵第四〇五大隊編成下令 編成完結（京都）
七 三 一	屯営出発
八 二	門司港出帆
同 日	第一四方面軍の隷下に入る
八 一 七	台湾高雄上陸
九 一 三	高雄港出帆
九 一 四	バタン島上陸
	爾後同島の警備に任ず
二〇 七 三 〇	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入る
八 一 五	停戦
九 二	終戦

部隊長 大尉 抽 木 保
 （注）終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

独立歩兵第四〇六大隊（鎧第一〇二九三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七 一七	軍令により独立歩兵第四〇六大隊編成下令 編成完結（福井県敦賀）
七 三 一	敦賀出發
八 二	門司港出帆
同 日	第一四方面軍の隷下に入る
八 一 七	台湾高雄上陸
九 一 三	第二中隊高雄港出帆
九 二 〇	バタン諸島イトバヤット島に上陸同島の警備
一 二 二 〇	第二中隊主力はバタン島に引上げ同島の警備
九 二 九	第三中隊高雄港出帆
一 〇 二	フガ島に上陸同島の警備
九 二 九	大隊主力（二、三中欠）高雄港出帆
一 〇 一	カミギン島に上陸同島の警備
二 〇 七 三 一	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入る

	<p>八 一 五 停 戦</p> <p>九 二 終 戦</p> <p>(注) 終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する</p>
--	--

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七	軍令により独立歩兵第四〇七大隊編成下令
七 一 七	編成完結（敦賀）
七 三 一	屯営出発
八 二	門司港出帆
八 一 七	台湾高雄上陸
九 二 九	高雄港出帆
一 〇 二	バブヤン諸島フガ島上陸
一 二 一 五	爾後同島の養備
一 二 一 五	以降数回に亘り米軍の爆撃を受く
二 〇	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

独立歩兵第四〇七大隊（鑑第一〇二九四部隊）

独立歩兵第四〇八大隊（鎧第一〇二九五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七	軍令により独立歩兵第四〇八大隊編成下令
一九 七 一七	編成完結（三重県久居町）
七 三 〇	屯営出発
八 二	門司港出帆
同 日	第一四方面軍の隷下に入る
九 五	高雄上陸
九 二 八	高雄港出帆
一 〇 一	バブヤン諸島カラヤン島に上陸
	爾後同島の警備に任ず
二 〇 一 二 〇	一部（第三、四中隊）バタン島に転進同島の警備に任ず
七 三 一	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入るも船舶の関係にて転進不能同島に於て終戦に至る
八 一 五	停戦
九 二 二	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立歩兵第四〇九大隊（鎧第一〇二九六部隊）

年月日	略歴
昭和一九七七年七月七	軍令により独立歩兵第四〇九大隊編成下令
七	編成完結（三重県久居町）
七	屯営出発
三〇	門司港出帆
八	第一四方面軍の隷下に入る
同日	高雄上陸
九	高雄港出帆
九	パプヤン諸島ダルビリ島上陸
二〇	爾後同島の守備に任ず
二〇	台湾軍（第一〇方面軍）の隷下に入る
七	停戦
三	終戦
八	
五	
九	
二	

（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立歩兵第一八三大隊（勤第一〇六六五部隊）

年 月 日	略 略	歴 歴
昭和 一八 一 二 五	独立歩兵第一八三大隊編成完結（徳島）	
一九 四 五 二	内地港湾出帆 ルソン島マニラ上陸	
	爾後南部ルソン、北カマリネス、南カマリネス、タヤバス州の要所に部隊を配置、治安維持警備に任ず	
一 二 二 九	第一次捷号作戦により部隊を集結北カマリリス、ダエトを出発リザール州アンチポロ附近に前進	
二 〇 二 一 三	イサベラ州カワヤンに到着	
六 一 二	ネバピスカヤ州バカバツク方面に転進を命ぜられ前進途中優勢なる米軍と遭遇戦斗に入り第二中隊第三中隊全滅の損害を受く。以後イサベラ州カバツアン、オロラ附近に後退戦斗継続	
自 二 〇 〇 八 七 二 五	山岳州マヨヤオに於て戦斗部隊の大部分を消耗す	

	昭和二〇 八 一五
	爾後ポンドック方向に転進す 倍 戦 九 二 終 戦 (注)終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

歩兵第八一旅団作業隊（勤第一〇六六八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六一五	歩兵第八一旅団作業隊編成完結（松本）
六三〇	宇品港出帆
七一六	バシー海峡において遭難
七二〇	ルソン島マニラ上陸
	海没者多数の為めマニラにおいて再編成
七二八	南部ルソン、ナガ着同地イサログ山並にカマグリ附近の陣地構築に任ず
二〇 一一五	米軍マニラに侵入之れと交戦の後東海岸に向い転進す
三 中旬	ラグナ湖東方約四〇料の山中に対陣以後自活自戦の態勢に入る
八一五	停戦
九二二	終戦
	（注）終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

野戦照空第二大隊（勤第三六三七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九六七年七月一六	野戦照空第二大隊編成完結（和歌山県加太） 爾後満州牡丹江に駐留
一九六六年六月二二	南方総軍直轄部隊として編成完結
一九六六年六月二七	比島派遣のため牡丹江出發
一九六七年七月一六	門司港出帆 ルソン島マニラ上陸
一九六〇年十一月二二	マニラ高射砲司令官の指揮に入り同地附近の防衛に任ず
一九六〇年十一月二二	マニラ出發イサベラ州エチャゲに向い転進
一九六〇年十一月二二	ヌエバピスカヤ州ソラノ附近に到着同地附近の警備
一九六〇年十一月二二	作令により各歩兵部隊に分割配属せられ終戦に至る
一九六〇年十一月二二	停戦
一九六〇年十一月二二	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

特設第一三機関砲隊（勤第一五四〇六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 五 二〇	軍令により特設第一三機関砲隊編成下令 編成完結（大阪和泉町）
五 二四	大阪港出帆
六 三	台湾東方火焼島附近に於て魚雷を受け航行不能となりたるため駆逐艦に曳行され台湾基隆に入港
六 二六	比島マニラ港上陸
二〇 一 一一	爾後マニラ附近の防空警備に任ず
四 一	ルソン決戦命令を受け北部ルソンに向い移動を開始す
四 二〇	勤兵団長の隷下に入る
六 一〇	北部ルソン、バガバック着同地附近の整備
六 二〇	米軍バガバック平原に侵入之れと交戦の後オリオン峙に沿い北進す
八 一五	部隊行動をとること不可能となりたるため各分隊はオリオン峙附近に於て自活自戦の態勢に立至る
	停戦
	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

特設第一四機関砲隊（勤第一五四〇七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 一 一	陸垂機密第二二七号により特設第一四機関砲隊編成下令
五 二 一	編成完結（大阪府信太山）
五 二 五	門司港出帆
六 一 七	比島マニラ上陸第四航空軍の隷下に入る
二 〇	爾後マニラ附近の対空警備に任ず
一 一 四	命に依り北部ルソン、エチャীগ飛行場に転進開始
二 下 旬	エチャীগに到着同地附近の警備
四 中 旬	第四航空軍は解体し部隊は勤兵団に配属されオリオン時に陣地構築並に同地附近の警備
六 一 〇	バガバツク平原に進出一部は北上キアンガン方向に転進す
六 二 〇	以降部隊行動をとること不可能のため各分隊は自活自戦の態勢に入り終戦に至る
	（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

特設第一五機関砲隊（勤第一五四〇八部隊）

年月日	略歴
昭和一九 五 五 二 三	軍令により特設第一五機関砲隊編成下令 編成完結（大阪）
五 二 四	大阪出発
同 日	門司港出帆
六 三	台湾火烧島附近に於て遭難
六 八	基隆港上陸
六 一 二	基隆港出帆
六 一 六	ルソン島マニラ上陸
一 二 一 四	爾後マニラ北飛行場の防空任務並に港湾施設船舶の援護に従事
同 日	ネグロス島バコロドに転進のためマニラ港出帆
一 二 一 八	ルソン島ハミロ湾に及て米機の攻撃を受け海没 マニラに帰着
一 二 一 九	マニラに於て再編成同地に在りて防空任務
二 〇 一 一 四	北部ルソンに転進のためマニラ出発

		昭和二〇
二	一六	カバナツアン、サンホセ、バンバン、バヨンボン、ソラノ等を経てイビル着
四	一	勤兵団長の隷下に入りムロン附近の防空任務につく
六	九	米軍と地上戦闘を交えたる後キャンガン西北方高地に於て自活自戦の態勢に移り終戦となる
八	一五	停戦
九	二	終戦
(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する		

第一〇五師団防疫給水部（勤第一二三六三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 七 九	軍令に依り第一〇五師団防疫給水部編成下令 編成完結（市川）
九 六	門司港出帆
一〇 一〇	ルソン島北サンフェルナンド上陸
一二 二九	爾後カマリネス州ナガに集結 マニラ近郊アンチポロに転進
二〇 一 一四	行動開始
二 一〇	北部ルソン島マウンテン州ソラノに到着同地附近の戦斗に参加
五 三〇	山嶽地帯キヤガンに転進す
八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する

第一〇五師団野戦病院（勤第一二三六一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 二 六	軍令陸甲第二六号により第一〇五師団野戦病院編成下令
七 九	編成完結（神奈川県相武台陸軍病院）
九 一	相武台陸軍病院出発
九 一 〇	門司港出帆
一 〇 九	ルソン島北サンフェルナンド、ポロ港上陸
一 二 一 五	カマリネス州ナガに前進し兵団衛生勤務に服す
一 二 二 〇	アンチポロに移動病院開設
二 〇	兵団転進に依り数梯団に分れ北部ルソン、バガバック方面に移動す
一 一 八	兵団の北部ルソン転進の途次に於ける患者収療の目的を以つてサンミゲルに患者療養所を開設す（高沢衛生見習士官以下一〇名）
二 一 四	若山軍医大尉以下六〇名ヌエバビスカヤ州モロングに野戦病院を開設兵団患者の収療に任ず（昭二〇・六・七閉鎖）
二 二 四	部隊はヌエバビスカヤ州トカルに集結爾後兵団衛生勤務に服す
六 五	キアンガン南方六籽サントドミンゴに野戦病院を開設す

九

二

終戦

爾後米軍の追撃により患者を収容しつつ、遂次西北方山中に移動し終戦となる

(注) 終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

		昭和一八		年 月 日	略 歴	独立歩兵第一八六大隊（勤第一〇六七〇部隊）
		一九	一三			
至	二〇〇	一	一	八	五	軍令により独立歩兵第一八六大隊編成下令 編成完結（丸龜）
自	八	一	二	二	九	門司港出帆 仏印サイゴン上陸 ルソン島マニラ上陸 爾後マニラ市附近の警備
	九	八	一	二	四	ルソン島に於て捷一号作戦準備並に戦斗参加
	二	五	四	〇		（注）終戦後米軍の収容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する
						終戦

独立歩兵第三五八大隊（勤第一〇六七一部隊）

年 月 日

隆 歴

昭和一九 七 一六

独立歩兵第三五八大隊編成完結（マニラ）
編成概要

大隊は会津若松に於て編成輸送せる部隊を以て比島に於て編成予定なりしも該部隊の輸送船「日欄丸」は昭和一九年六月三日バンシー海峡に於て海没し約半数の損害を受け生存者は七月一五日各部隊補充員等と共にマニラに上陸せしも編成困難のため第一〇五師団各部隊補充員を主力として歩兵一中隊及大隊作業隊要員を若松編成部隊より補充し編成す

サンタクルーズ（マニラ東方約六十料）に移動し裝備教育、訓練を実施す
爾後タヤバス附近に移動しラモン湾西側附近の陣地構築及防衛に任ず

イボ（マニラ東北方約四十料）に転進同地附近の警備並に陣地構築に従事

米軍上陸以後は「アンガット」「ポコール」「ラコタン」「サントル」に出撃す

「イボ」陣地より其の東北方約二料―六料の間に転進し兵団主力の背後を掩護すると共に斬込戦闘を実施す

停 戦

終 戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する

二〇 五 一四
八 一五
九 二二

独立戦車第八中隊（勤第一七六五九部隊）

年	月	日	略	歴
昭和一九	六	六	仮編戦車第九中隊編成（兵庫県中部第四九部隊）	
	六	二九	宇品港出帆	
	七	一〇	比島マニラ上陸同地区飛行場設定作業に従事	
	九	二〇	独立戦車第八中隊に改編	
			爾後南部ルゾン、ナガ附近に転進、同地区アナン及ピリー飛行場設定作業並に同地区整備	
			マニラ附近に転進	
	一一	二五	第一〇五師団に配属	
	一一	八	戦車第二師団に配属ムニホス、リザール附近の戦斗に参加	
	三	一〇	第一〇五師団に配属爾後キヤガン附近に転進戦斗継続す	
	八	一五	停戦	
	九	二	終戦	
至自			<p>（注）終戦後米軍の收容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する</p>	

野戦高射砲第七七大隊（勅第一二四一五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九五 五 三〇	軍令により野戦高射砲第七七大隊編成下令 編成完結（舞鶴）
六 三〇	門司港出帆
七 五	台湾基隆着
七 七	基隆港出帆
七 一五	マニラ港上陸
同 日	マニラ高射砲司令官の指揮下に入る
自 一九 一 七	マニラ附近飛行場並にマニラ港湾掩護の爲め対空戦斗
自 二〇 一 一	作命により北部ルソンに転進開始
自 二〇 〇 〇	ヌエバビスカヤ州バヨンボン附近に於て軍の兵站路掩護の爲の対空戦斗
自 二〇 〇 〇	本部及第一中隊主力、第三中隊の一部キヤガン地区に転進、第三中隊はオリオン峠地区に転進戦斗に参加、第二中隊は昭和一九年一二月北サンフェルナンドに分遣、

	昭和二〇 八 一五
	<p>バギオ地区の戦斗に参加</p> <p>停戦</p> <p>終戦</p> <p>(注) 終戦後米軍の収容所に入ると共に解隊せられ爾後各個に復員する</p>

特設機関砲第一三大隊（勤第一五四〇六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 五 二〇	軍令により特設機関砲第一三大隊編成下令 編成完結（大阪）
五 二四	大阪港出帆
六 二六	比島マニラ上陸
九 一	爾後同地附近の警備 以降戦闘勤務に移る
一 一 一	北部ルソンに向い移動開始
四 二〇	北部ルソンバガバツク着
四 二〇	バガバツク地区の警備並に戦斗に参加
六 二〇	米軍バガバツクに侵入によりオリオン峠に沿い北進す
六 二〇	以後各分隊毎に分散行動により北進自活自戦の態勢に移る
八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると共に解散せられ爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 二 五	独立速射砲第二一中隊臨時編成下令（三江省佳木斯）
八一〇	佳木斯出發
八一二	釜山出發
八一四	門司港出帆
八一八	台湾基隆上陸
一一二六	台湾防衛
一一二六	高雄出發
一二二三	北サンフェルナンド上陸
二〇 八 一 五	バレーテ、サラクサク地区の戦斗に参加
九 二	停戦 終戦

（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立速射砲第二一中隊（鉄第一三三二二部隊）

		年 月 日	略 歴
	昭和一九	一一	独立速射砲第二六大隊編成完結（甲府）
		一一	屯営出発
		一一	門司港出帆
		一一	台湾高雄上陸
		一一	高雄港出帆
		一一	ルソン島北サンフェルナンド、ポロ港上陸
		一一	第一〇師団長の指揮に入る
		一一	爾後バレテ、ブンカン地区の戦斗に参加
		一一	停戦
		一一	終戦
		一一	（注）生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

臨時機関銃第二中隊（鉄第四〇一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九一三 七	臨時機関銃第二中隊編成完結（マニラ） 中隊長 執行秀雄 以下一二二名 搜索第一六連隊（日比部隊）に配属す 爾後マツキンレー北飛行場の警備
二〇 一 五	転進のためマツキンレー出発 アリタオ到着
二 一 三	第一〇師団長の指揮下に入る
三 一 九	バレテ特到着
三 一 〇	以降バレテ地区に於ける戦斗に参加
四 一 〇	バレテ撤収開始、キヤガン山中に転進
六 一 三	停戦
八 一 五	終戦
九 二	（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

臨時機関銃第三中隊（鉄第四〇二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九一二年七月	臨時機関銃第三中隊編成完結（マニラ） 中隊長 少尉 山本 覚 以下一一〇名 爾後マニラ東飛行場の警備
二〇一一年一月	マニラ東飛行場出發
四一一年一月	鉄兵団第一線追及を命ぜられサラクサククに向い転進 爾後サラクサクク、バレテ峠一帯の戦斗に参加
八一五年	停戦
九二二年	終戦

（注）生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

開拓勤務第二二中队 (鉄)

年月日	略歴
昭和一九三三 三二四	軍令により開拓勤務第二二中队編成下令 編成完結 (京都)
八二〇	宇品港出帆
一〇	台湾基隆港に寄港
一一 上旬	ルソン島北サンフェルナンド上陸
二〇 一 上旬	カバナツアン經由サバン地区に於て警備並に食糧確保に従事 リザール地区に転進バレンテ峙に布陣 爾後同地の警備
六	カンブ地区に転進
七 上旬	カ、ヤン河沿北進中終戦となる
八 一五	停戦
九 二	終戦
九 一五	米軍に投降、武装解除

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解散させられ爾後各個に復員する

昭和一九 六 一六 六 二七 七 一五 同 日 二 二 二 〇 五 三一 八 一五 九 二		略	歴	独立歩兵第三八〇大隊（盟第七二〇六部隊）